



とよおか

議会だより

第 10 号

平成13年 1月19日

発行/豊丘村議会 編集/議会だより編集委員会 印刷/龍共印刷(株)



盛況だった初の女性模擬議会

12月定例会

12月定例会の様子	2~3
予算委員会の質疑から	4~5
一般質問の様子	6~10
時の話題	11
委員会だより	12~13
「私の一言」、最近の活動から	14



大好評の福祉タクシー

福祉タクシー利用 当初予測を大きく上まわる —— 600万円追加

◇一般会計
二億四千八百七十八万五千円が追加補正され、予算総額は三十八億四千九百九十五万五千円となった。補正財源は、前年度の繰越金二億四千五百七十九万一千円がほとんどであり、歳出においてもそのほとんどを予備費（二億四千二百八十七万円）として計上したものである。

政策面での補正では、福祉タクシー委託業者への契約金の追加六百万円、林里地区へ建設予定の福祉施設設計料五百二十万八千円等が注目されるものである。福祉タクシー制度は、当初予算で九百八十五万円計上されており、今回で一千五百八十五万円となり昨年までのタクシー券制度の約二倍の予算となったが、それだけ利用者に喜ばれているとも言えるわけであり、今後の制度のあり方について所管

補正予算から

の社会委員会で検討されている。林里地区の福祉施設は、生き生きデイサービス（介護保険で認定されない高齢者自立）の拠点として、又障害者の支援センター的な施設、及び林里地区のよりどころとしての性格を合わせもつ複合型施設であり、国の補助事業として採択されれば、十二年度事業として実施の方向で準備されるものである。

その他には、公用車の更新（一台廃車、一台購入）百四十万円、有害鳥獣防除対策百万円、災害復旧費一千八百二十万円、老人保健特別会計への繰出金二百六十六万六千円等が主なものである。

◇老人保健医療会計
補正額五千万円で、総額八億八千四百二十二万二千円となる。十一年度決算額が見込みを上回ったこと、介護保険制度の施行

12月定例会

第四回定例会は、十二月十一日より二十五日までの十五日間の会期で開催されました。
今定例会では、補正予算五件、条例制改定七件、議員提案一件が審議され、新しい条例制定案一件が否決された他は原案通り可決されました。

条例

◆議会議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の改正
期末手当の支給率を変更するものである。

◎一般職の職員の給与に関する条例の改正
扶養手当・期末手当・勤勉手当の改定である。

◎村税条例・水道条例・下水道条例・消防団員公務災害補償条例の改正
いずれの条例も、国の省庁再

意見書

◎地域農業の持続的発展に関する意見書
採択された請願内容に基づき、WTO農業交渉・セーフガード

の発動・経営所得安定制度・食料自給率向上対策の四点についての意見書を総理・農林水産・自治の各大臣宛に提出するものである。

◇簡易水道会計

補正額二千九百三十九万四千円、総額二億二千六百三十九万四千円となる。

前年度の繰越金を予備費計上するものが主であるが、他に山田配水池への管理道路修繕や需要費の追加等である。

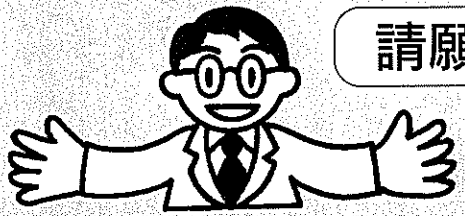
◇下水道会計

予備費を一千万円減額補正して、新道田村交差点附近の県道未改良地区への本管及び公共マス設置工事費、小園及び中芝地区の本管引込工事補助金等へ補正計上したもので、予算総額に変更はない。

◇介護保険会計

認定申請者が当初見込みより増加したため、申請時に必要な医師の意見書への謝礼を追加補正したもので、同額を保険給付費で減額したため総額に変更はない。

請願・陳情



- ◎松林への農薬空中散布の有効性・安全性が確認されるまで無期限延期を要望する陳情——継続
- ◎障害を持つ子がリハビリを受けるためにかかる交通費援助についての陳情——採択
- ◎伴野原梨園地西側の土地有効利用についての陳情——継続
- ◎地域農業の持続的発展に関する請願——採択
- ◎育児・介護休業法と保育制度の拡充を求める陳情——継続



豊作を願って……寒中の剪定作業

予算特別委員会 審査の質疑から



苦心の防護柵

検討する中で、それに合った施設をといて事で、地元の方々と協議をし介護保険の受給者とならないための予防施設（生き生きデイサービス）の拠点として建設をします。そのための実施設計委託料で五百二十万八千円を予算計上するものです。

シカやイノシシ対策は

農業振興費の中で予算化されているもので負担金補助及び交付金とし支出されているもので内容をみますと、鹿・猪の被害に対する網あるいは、機械等による防除に補助するものです。

これはバス路線を中心とした交通支障木及び日陰解消のための支障木等を伐採するための費用を委託料として支払うものです。なお、水道配水池等含む管理道路の支障木についても、電線等通っているため、電線の切断事故又緊急点検等発生するおそれがあるため、一般道路以外の水道用道路等も含めて支障木刈り払い事業を進めてほしいとの意見もだされた。

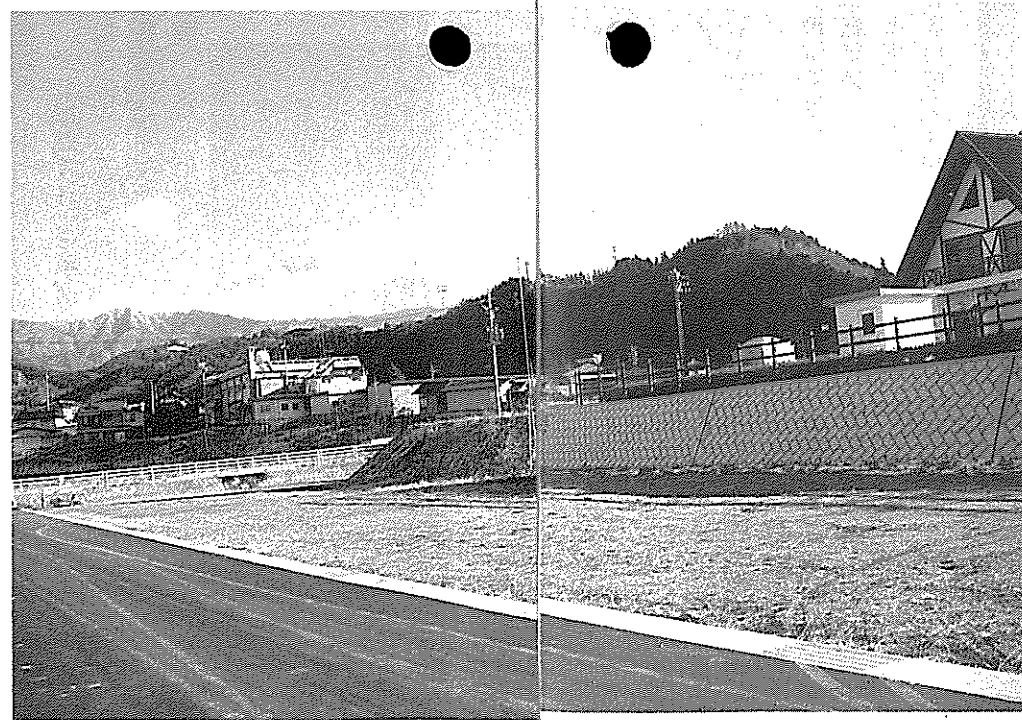
支障木刈り払い委託料とは

近年特に鹿・猪の被害は想像以上に深刻で被害件数も多く、網や、機械等での対策ではとても追いつかない現状であります。今後は網とか機械で追い出すというだけでなく、生態数自体を駆除していかないと、解決しない問題ではないかとの意見がだされた。

現在公共柵までの工事については全戸はほぼ終了していますが、一部田村新道地籍において、県道改良工事との関連で、現在まで下水道の公共柵の入れこみを待っていただいていた。しかし県道改良がなかなか進まず見通しもたない状況の中、下水道への希望も強くあることから、今回関係者五戸について、公共柵までの工事設計費を予算化するものです。

又、小園地区の住宅団地二十

一戸と、中芝地区の住宅団地三戸、その他二戸を含めて本管までの引込み工事について、補助するものです。なお予算については、予備費を使って処理をするので、予算総額三億一千三百九十五万九千円には、変更ありません。



介護予防拠点施設の

建設予定地

下水道事業特別会計の補正内容は

これは林新田に建設した汚水処理場に伴う地元及び関係者との約束事項で、集会場を含む公共施設を十三年までには建設する計画です。できれば補助金及び有利な起債等総合的に資金を



新規購入した公用車

公用車の現状は

現在役場には、マイクロスバを含めて三十二台の公用車があります。その中で二台の車を廃車して、一台の車を購入するもので予算は百四十万円を計上するものです。公用車の更新については、俗に言う乗りつぶして長年使用して費用対効果面等で大きな費用をかけても効果が少ない場合については、買い換えでいくというのが基本的な考えです。

福祉タクシーの補助予算は大幅追加

交通弱者に対してタクシーによる支援を行っているが、昨まではタクシー券を交付していましたが、交付の内容等配布がむずかしく、問題もあり、今年より福祉タクシー補助として利用者証を交付するものです。対象者は、村内に住む七十五歳以

老人福祉費の中での委託料の内容は

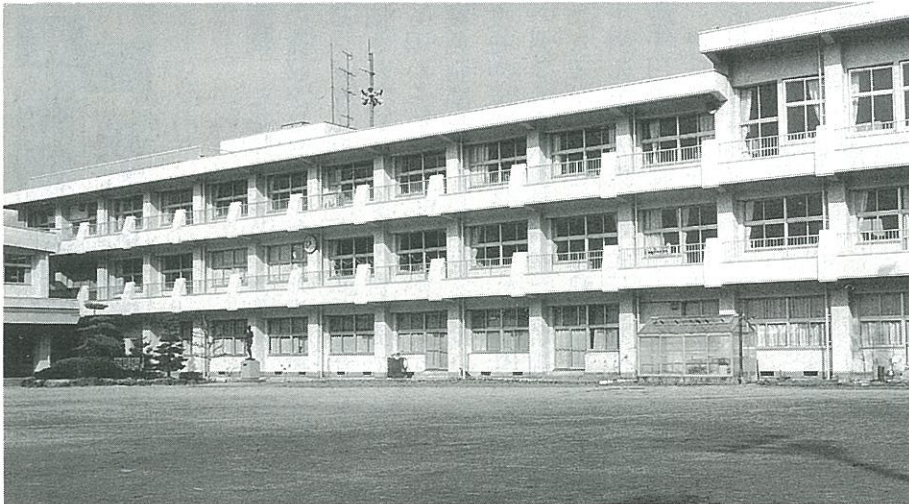
これは林新田に建設した汚水処理場に伴う地元及び関係者との約束事項で、集会場を含む公共施設を十三年までには建設する計画です。できれば補助金及び有利な起債等総合的に資金を

公述人報酬とは

議員定数問題が各方面で話題となり、豊丘村においても、議員の中から意見も出され平成十一年六月二十三日に議員定数研究特別委員会が設けられ十名の議員が任命され発足する。十二年度中には結論をだすべく、先進地の視察、近隣町村の状況等

研究を進めている。又広く村民からも意見聴取をすべく文書又は村政懇談会等に於いても意見を聞き、平成十三年二月頃までに公聴会を開き、あらかじめ意見を述べる人（公述人と言う）を定めて実施するもので、今回十名程の公述人出勤実費として、報酬を予算化する。

一般



生徒が減少する北小学校

質 少子化と高齢化時代を迎えて 答 住宅の誘導対策など必要

田中 實

質問 二十年程前南小学校改築に当り、一校制か、二校制かで、村を分けて大なる議論がなされ、二校共改築されて今日まできています。この間、北小は三十人、南小は七十人減少し、今後六年間に急激な減少が予想される。北小は五十名の減に、南小は四十名の減になる。十四年度の北小の新入生は、十名となる。河野地区に大量の移住者でも来ない限り、この数字は変わらない。現況でも北小は、十七名から二十三名のクラスに対し、南小は五十五名から七十五名で三十八名のクラスがあり、この様な状態をどう見ているのか。河野地区の人口増加対策の見通しがあるのか。このままでは、北小が七十名となっても、二校制の維持は出来るのかどうか。教育懇談会等ではどの様に話し合われておられるか。通学区の見な

質問 二十年程前南小学校改築には研究するのかがどうか。高齢化についても急激に進行している。九十歳以上が六十一名、八十歳代が四十五名、七十歳代が約千名、六十歳代が約九百名となっている。林新田に計画中の施設の内容は。元氣な老人や、一人住まいの人達が楽しく暮らせる施設は。

村長 北小の児童数は急激に減少しており心配している。一部に統合という声もあるが、とりまく環境もよく、児童数の増加対策、例えば住宅の誘導対策など必要と考えます。高齢者の憩いの場は、老人憩いの家の他いくつかあります。また、林里に介護予防の拠点施設を計画しています。それらを活用し、楽しい生活を送ってほしいと思います。

あるが、来年度各課に配置したい。一般文書はインターネットになると思われる。

各種事業の進捗状況は

質問 防災無線の難聴解消は。村長 調査発注先より去る十五日結果報告があり、総務委員会に検討をお願いした。充分検討の上、十三年度に整備したい。

質問 天竜川架橋の運動について

村長 従来型の陳情は受けないと明言している。国・県議員の先生や関係機関の指導を受けて進めていきたい。地域戦略プランについても、早急につめて行きたい。

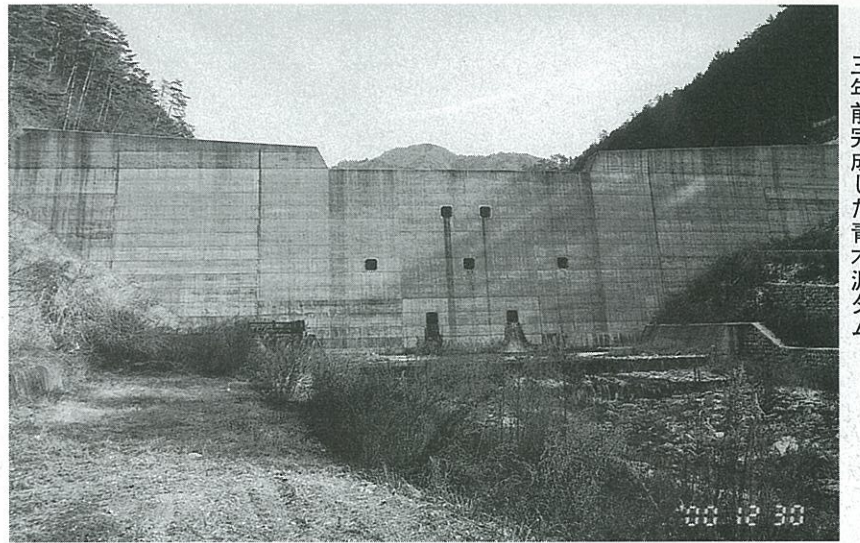


パソコンに困る役場 電算室

90年代 66人
80 " 82人
70 " 99人
60 " 90人

12. 2. 1 (2)

質問



三年前完成した青木沢ダム

質 ダム建設と今後の取組みは 答 膝をまじえ実状を聞いてもらう

鹿角 鉄男

質問 十月の県知事選において多数の県民の支持をうけ田中知事が誕生した。十二月の県議会での所信表明を行う中で緊急施策として現場主義の実践を提示し、子供未来センターは基本から考え直す、大仏・浅川ダムについても中止又は他の方法との発言をした。様々な住民の意見を現場で聞きながら小異を残し、中異を抱え大異につくしなやかな姿勢により適切な対応を図っていくと述べている。

そこで豊丘村のダム計画である郷土沢ダムは多目的であり工用の道路は着工しているが要注意の現場と思われる。改めて国・県の確約が必要と思うが、理事者の考えはどうか。

日向山ダムは、砂防ダムの計画の中で飲料水を確保するものと理解するが、理事者の考えはどうか。

日向山ダムは、砂防ダムの計画の中で飲料水を確保するものと理解するが、理事者の考えはどうか。

質問 十月の県知事選において多数の県民の支持をうけ田中知事が誕生した。十二月の県議会での所信表明を行う中で緊急施策として現場主義の実践を提示し、子供未来センターは基本から考え直す、大仏・浅川ダムについても中止又は他の方法との発言をした。様々な住民の意見を現場で聞きながら小異を残し、中異を抱え大異につくしなやかな姿勢により適切な対応を図っていくと述べている。

そこで豊丘村のダム計画である郷土沢ダムは多目的であり工用の道路は着工しているが要注意の現場と思われる。改めて国・県の確約が必要と思うが、理事者の考えはどうか。

日向山ダムは、砂防ダムの計画の中で飲料水を確保するものと理解するが、理事者の考えはどうか。



質 IT(情報技術)推進事業は 答 公民館の学習会を規模拡大する

片桐 秀人

質問 国の、十二月補正予算の中に「IT推進特例事業」として五百億円が成立した。これはパソコン、インターネット等の普及を計るため、その知識や技術を講習するものであるが、県の計画では九万人であり、その割合で行くと当村は三百人程度と推定されるが計画は。

村長 先進国日本としては遅れているが、今からでも遅くない。総務課長 十三年度に実施したい。今公民館で行っているものを規模拡大して行きたい。

行政情報ネットワークは

質問 県は「信州コミュニケーション」を立ち上げるよう準備をしているが、当村の進捗状況はどうか。

総務課長 十三年四月より広域連合が供用開始になる。現在庁内に一台接続できるパソコンが

電算室

問 質 一般

質 介護保険料の減免を 現在の保険料は妥当と考える

前 沢 光 昭

質問 この十月より介護保険料の徴収がはじまった。介護保険はスタート時より高い負担が指摘されている。多くの自治体でも国からの圧力にもかかわらず減免制度をつくらなかったり、補助制度をつくっている。二〇〇一年一月より老人医療費が一割負担になる。今まで一回五百三十円で済んでいた人も場合によっては数千円の負担になる。

豊丘村には介護保険法による所得段階第一、第二あわせて十一月現在で四百三十九人いる。この段階は低所得、年金額三万〜四万円では負担はかなり大

きい。半額補助の場合来年度単純計算で約三百五十万円が出来、是非検討を。国に対しても改善をするように要請してほしい。

再質問 負担が高く利用できない

いものとならないよう改善を進めてほしい。

家電リサイクル法の対応は

質問 家電リサイクル法で消費への補助や、収集は。村内家電業者は農協のみだがどう対応するのか。

村長 リサイクル料はメーカー設定の額。収集運搬料は小売業者は二千円、村でやる場合少なくとも二千円以上に設定したい。

田中県政への対応は

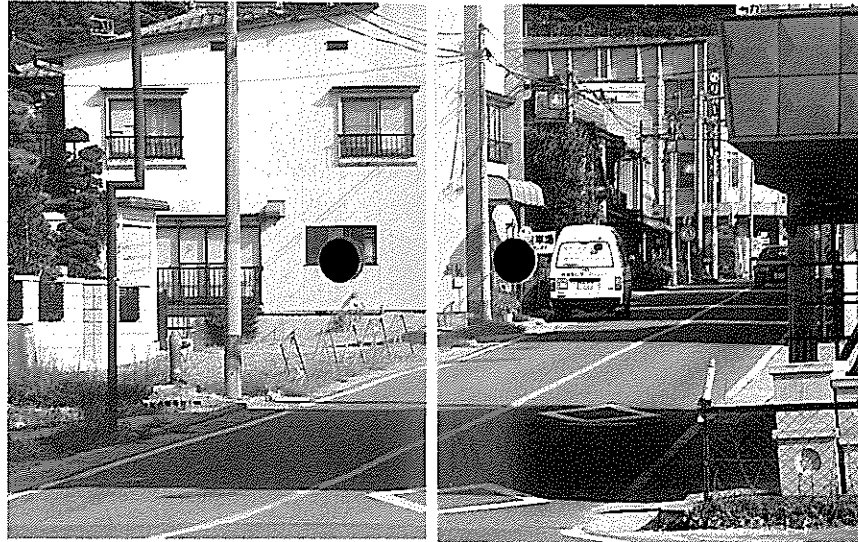
田中知事は行動力があり、物事の考え方についても画一的でなく、多くの選択肢をもっている。誠意をもって信頼関係を強めて、頼りにしていきたい。

質問 県知事選挙の結果から何を感じられたか。また県民との対話を重視する田中新知事の手法は、県政が身近になったと評価されているが、新しい県政との関わりについてどう考えているか。

田中知事は行動力があり、物事の考え方についても画一的でなく、多くの選択肢をもっている。誠意をもって信頼関係を強めて、頼りにしていきたい。

質 道路用地補償単価の見直しは 改善を前提に検討する

唐 沢 啓 六



改良が待たれる田村新道

質 道路用地補償単価 改善を前提に検討する

補償算定額より実勢価格が大幅に上まわる地域がある。田村新田では、坪九千五百円が実勢では六万円であり、伴野、林、河野でも同様の傾向だ。改善を前提に検討したい。

軽減対策の適用者は現在まで何名か。対象者が年収二十四万円以下では厳しすぎる。「生計中心者が所得税非課税」の水準まで緩和すべきではないか。

質 新防災計画の周知徹底を 基礎知識の普及啓発に努める

北 澤 貢

質問 新防災計画が本年三月に作成された。特に変わった点は何か。これを期に今一度防災について周知徹底を図る考えは。

東海地震の発生はある程度切迫しているとして、人的被害に追いついても土砂災害により倍増が予想されている。食料・薬品・生活必需品の備蓄の数量は妥当な数字であるか。

村長 大災害が発生した際の自治体、広域の応援体制計画策定、記述の具体性と災害発生直後の職員の初動体制の見直し、ボランティアの受け入れ態勢の整備など、地震防災強化地域に指定され二十一年が経過する中で防

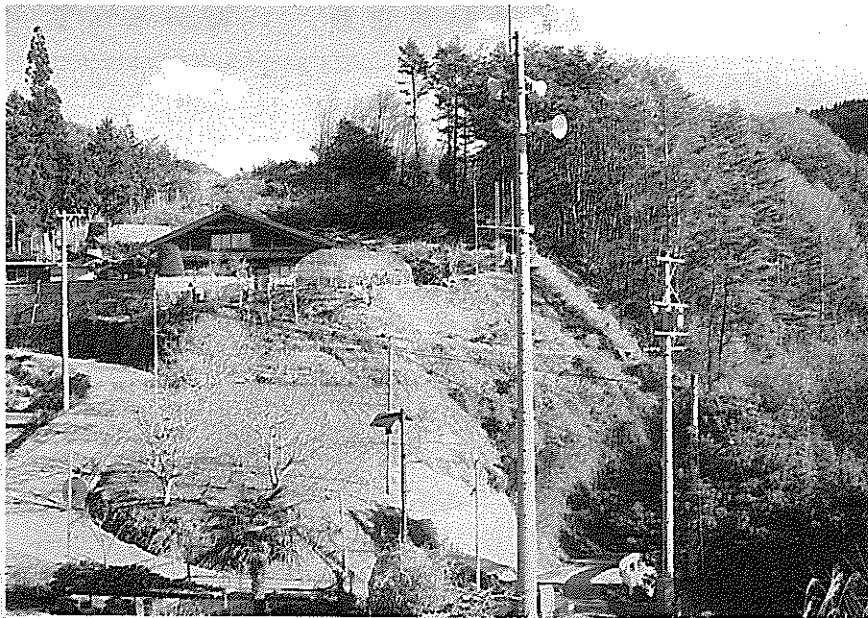
災に対する意識が薄れていることも否めない。災害に対する基礎知識の普及啓発に努めていく。備蓄については目標はあるが、まだ充分でなく計画の目標に向けて順次整備、備蓄を図る。

IT講習推進特別交付金事業について

質問 この事業は全国的に行われる、講師の不足が心配される。役場職員が補助員として手伝いをしたらと思うが、多くの人に講習してもらうためお年寄りや身障者、車椅子でも利用できるよう配慮すべきだ。

十二時間講習で習得できない人にも何らかの対応も必要だ。

総務課長 講師不足は心配している。学校の先生を中心にボランティアの人達にも協力してもらえればありがたい。職員についてもできるだけお手伝いする向きで考えていく。補修授業もやる必要があるかなあと考えている。



難聴地区解消が課題の防災無線

特養ゆいの里の居室



時 題 の 話

計二十床
 *デイサービスセンターE型
 定員三十〜三十五人 重度十五人 痴呆八人 その他七〜十二人

○福祉複合施設の基本的な考え
 一、地域の在宅福祉サービスの拠点となる施設(特別養護老人ホームは広域的な役割を担う)

いよいよ本体工事に着手

高森町との福祉複合施設Ⅱ

福祉施設研究委員・社会委員長 鹿角 鉄 男

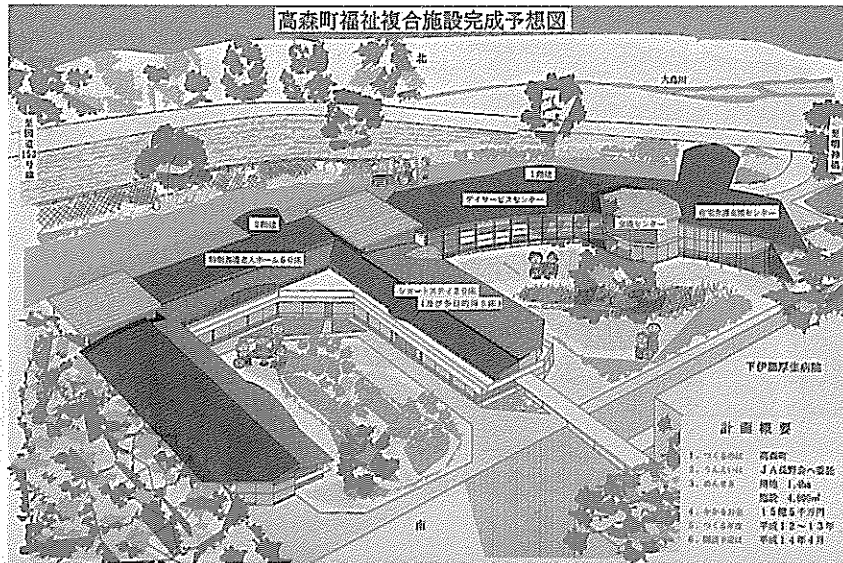
二、生活の場としての環境整備を目指した施設(収容的ではなく居住性の高い施設)
 三、地域と交流でき地域に支えられる施設
 四、利用する人の立場に立った施設(気軽に利用できる施設)
 五、介護保険以外の福祉も考慮した施設(多目的介護室五床)

六、医療や保健と連携した施設
 七、機能を重視し低コストで堅牢な施設(快適性、利便性、安全性、経済性重視)

以上七項目を研究専門委員会としてまとめ建築設計の中に取りこみをお願いしました。
 省エネの為、断熱、気密性の高いペアガラスを木製サッシに、

室内の主要部に床暖房を設置する、避難設備は西側の二段に二階より二箇所の通路をつくる、又建物にはスプリンクラーを設置する。中央部から病院へ渡り廊下を作り医師看護婦の緊急時の救急看護を行う事が可能になります。

なお、シャワーサービスセンターは、高森町との共同利用を検討しております。事業費も自分の負担が必要です。



期待される地域福祉の拠点施設

十二月十一日建設業者の入札を行い平成十四年一月の完成をめざして工事に着工する運びとなりました。

二、生活の場としての環境整備を目指した施設(収容的ではなく居住性の高い施設)
 三、地域と交流でき地域に支えられる施設
 四、利用する人の立場に立った施設(気軽に利用できる施設)
 五、介護保険以外の福祉も考慮した施設(多目的介護室五床)

室内の主要部に床暖房を設置する、避難設備は西側の二段に二階より二箇所の通路をつくる、又建物にはスプリンクラーを設置する。中央部から病院へ渡り廊下を作り医師看護婦の緊急時の救急看護を行う事が可能になります。

いもあり現実的にはむずかしきもある。村づくりの主人公は村民であり、住民参加の中でご意見を反映させながら、豊丘村民憲章の五つの理念に基づいた第四次長期振興計画を十四年十二月議会で策定予定なので、この作業の中で参考にしていきたい。

一 般 質 問

質 新 知 事 誕 生 と そ の 対 応 は 誠 意 と 熱 意 で 信 頼 関 係 を 築 き 進 め る

福澤 幸雄

質問 行政の継続性、県政と地方行政の限りなき事業の展開を期待していたが、新知事誕生で今までの手法で行政の継続性、新しい事業の展開が出来るのか。知事発言に疑問を持ちながら、十二月八日から始まった県議会の代表・一般質問・知事発言の中で本意をさぐる中で、豊丘村としてどう対応したら良いか質問をいたします。

一つには、しなやかさは鋼鉄のしなやかさである事。二つには県民の意見を聞くという事が、自分の哲学・理念の押しつけが

見える。三つ目には一般に理解出来ないカタカナ語・熟語を使い目線で話をするという事に反する。四つ目には、公共事業を見直すというが、飯伊では無駄な公共事業があるのか。五つ目には、現職大臣や県職部長を酷評し、これからの県と国とのパイを傷つけ、国からの交付税などの事業展開にマイナスにならないか。この状況の中で村の対応は。

村長 社会資本の整備、住民の切なる要望は数多くある訳で、誠意を持って信頼関係を築いて、

村長の期待に込めてゆきたい。重要な継続事業については県への要望を強くし、田村新道整備が一日も早く実現する様願っている。

総務課長 県政は知事一人で出来る訳がないので、県の各部署を通じ今までの手法で事を進める事が良いのでは、と思っています。



質 民 泊 ・ 農 業 体 験 で 次 期 長 期 振 興 計 の 村 お こ し は 画 策 定 の 参 考 に

下 平 豊 久

質問 第四次長期振興計画策定期を控え、農業従事者の高齢化、後継者不足とも重なって大規模な農地転用を伴う企業、施設等の誘致の希望も聞かれる。開発も大切なプロセスの一選択肢に違いないが、遊休農地の活用と豊かな自然を生かした村おこしも大切な選択肢と言える。

人材育成事業の海外研修参加者は、『自然に囲まれた心の故郷と呼べるにふさわしい豊丘村

で過ごす体験型ホリデイライフの提案を研修テーマにし、囲炉裏のある、古い木造の家屋を宿泊施設に、リンゴの収穫体験の企画。既存の物を保存、使用しながら見る・触れる・体験でき、そんな感覚で村を考えたらと積極的な提案』をされています。

十月の三回目の味体験ツアー参加者の三分の一はリピーター。農家民泊の試みも四組の家族が

利用し好評で来年も又参加したいとアンケートに答えています。広域農道周辺の里山と景観を生かし、四季折々新緑や紅葉に接し気楽に散策して山の幸の収穫や、清水の水辺でメダカの鑑賞と魚とり、民泊しての農業体験等の村おこしのお考えは。

村長 私もドイツで農村の村おこしを研修したが、国民性の違

いもあり現実的にはむずかしきもある。村づくりの主人公は村民であり、住民参加の中でご意見を反映させながら、豊丘村民憲章の五つの理念に基づいた第四次長期振興計画を十四年十二月議会で策定予定なので、この作業の中で参考にしていきたい。

総務 教育現場の実態は

学校教育については教育委員会の管掌事項ですが、議会では総務委員会が担当し、予算の執行は理事者が行っております。学校又は教育についての諸事や問題等がマスコミで報じられておる昨今であります。豊丘村の学校運営の現状等について理解し対応するために理事者、教育委員、校長、議会総務委員の四者で教員問題懇談会を行いましたので今回はこの件について報告致します。

プライベートの問題があり具体的に書けませんが、書面の都合で簡条書にまとめてみました。

●当村の学校にも問題がない訳

● 学校現場での問題はすべて教育委員会に報告され、教育委員会と学校は一枚岩となって問題

ではない。問題となるような事例の原因は、①保護者に問題がある場合、②学校(担任)に問題がある場合、③子供間の問題に大別される。

● ②③の問題解決は比較的すみやかにできるが、家庭に原因がある場合は家庭の理解と協力がなければ問題は解決しない。この場合は保護者の考え方や生活態度に問題がある場合が多いのではないかと、子供の為に一番良い方策は何か、を判断基準に保護者と学校で連絡を密にして対応している。

● 学校現場での問題はすべて教育委員会に報告され、教育委員会と学校は一枚岩となって問題

● 南北小学校は各々その規模により特徴のある教育をしているが、学級人数の差は益々広がる傾向にあります。学区問題も含めて真剣に論議する時が来ているように思われる。

● 中学校のパソコンはインターネットへのアクセスを考慮し、早急に更新したほうがよいのではないかと。

以上は教育問題懇談会の時のメモを整理したものであります。(総務委員長 筒井卓徳)

解決に取り組んでおり、その成果は順次上がっている。

● 本年から始まった学童保育については義務教育年齢の学童であり、事業の運営について、保育担当者が更に学校と連絡を密にしてゆく事が効果的ではないか。

● 中山間地域直接支払制度 農業のもっている多面的機能(国土保全、食料生産、景観形成等)の重要性を考え、その維持が困難になりつつある、中山間地域の耕作者に、国から直接補助金を支給する制度です。

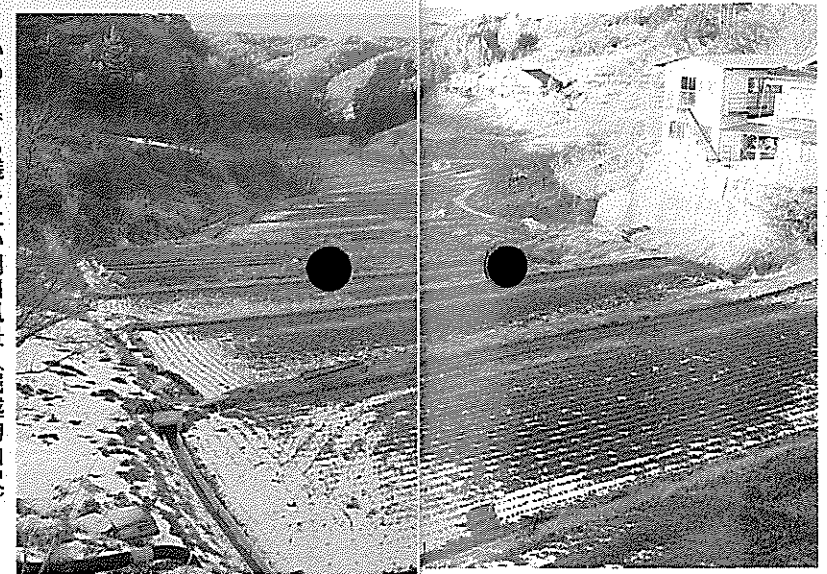
一定の条件が整えば(傾斜地であり集団になっていて、五年間は耕作を継続すること)最高10a当たり二万一千円が支払われます。

豊丘村でも条件が適合する地域が十二ヶ所ありますが、耕作者の方々の話し合いがまとまったのは、十五haの八ヶ所となりました。

耕作放棄・荒廃・災害と急速に進行することを懸念して、直接支払という即効性を期待した

だより

委員会



いつまでも残したい棚田風景(堀越切山沢)

傾斜地の流亡

懸念される

建設

経済

● 中山間地域直接支払制度 農業のもっている多面的機能(国土保全、食料生産、景観形成等)の重要性を考え、その維持が困難になりつつある、中山間地域の耕作者に、国から直接補助金を支給する制度です。

一定の条件が整えば(傾斜地であり集団になっていて、五年間は耕作を継続すること)最高10a当たり二万一千円が支払われます。

豊丘村でも条件が適合する地域が十二ヶ所ありますが、耕作者の方々の話し合いがまとまったのは、十五haの八ヶ所となりました。

耕作放棄・荒廃・災害と急速に進行することを懸念して、直接支払という即効性を期待した

● 制度ですが、全国で数多くのまどらなかつた地域がでております。条件の一つにある「五年間継続すること」というのがせつかくの補助制度を受け入れできない理由にあります。

● それだけ耕作者の体力、気力が落ち、経営環境(後継者、価格等)が悪くなっている実態が浮き出てきたと言えます。

● 郷土沢ダム周辺整備 平成十七年頃に本体着工をめぐり、工事用道路、用地交渉取得、土捨場整備等に取り組んでいます。十二年度は四億円が投入され、予定された工事はほぼ三月に完成されます。

● 引き続き十三年度も同等の事業費が予定されております。本体の工事費は百十億が見込まれております。国、県の財政事情の好転が期待されます。(経済建設委員長 奥山義臣)

社会

上程された条例(案)否決される

● 「人権を尊重し差別のない明るい豊丘村を築く条例」が委員会へ付託されました。同じような条例は県下すでに九十九市町村が制定しており、飯伊地区でも八町村が決まっております。

● 委員会では条例の精神については異論はないが条例の中に「部落差別をはじめとする……」とあって、村内にはそのような事例はなく特定の団体の要請ではないか、又、部落差別をことさらに強調しすぎている感があるなどの意見が出て、今回提案された条例は不採択となり、十二月二十二日の本会議でも否決とな

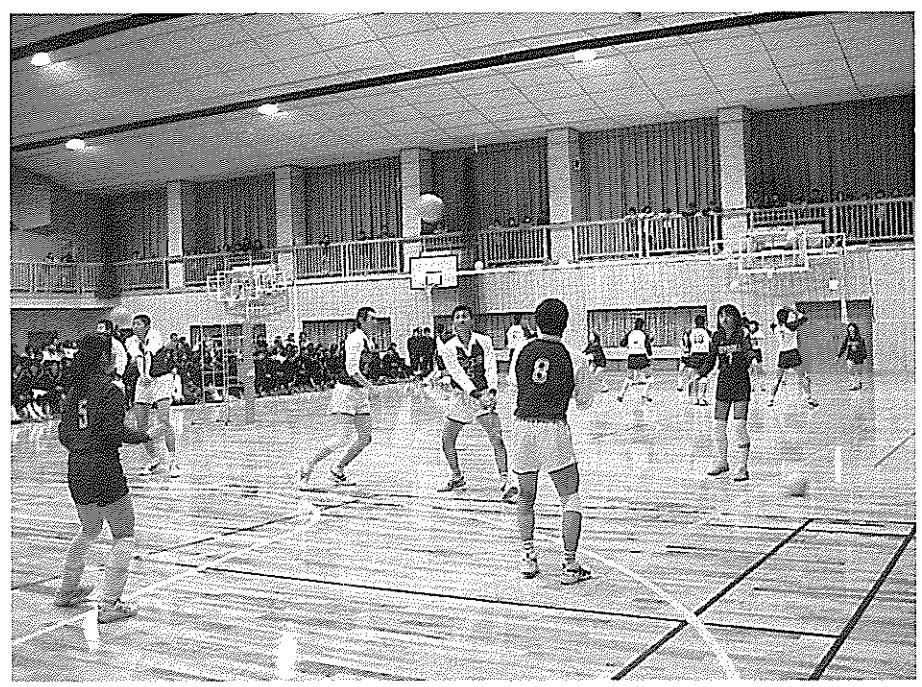
● 介護予防拠点施設を計画 生きがい活動支援通所事業(はつらつデイサービス)の施設が林里の下水の終末処理場の隣へ計画しています。お年寄りばかりでなく障害者や地元住民も気軽に利用でき、各種団体の会合や催事にも利用出来ます。風呂も作り厨房もあり、床暖房も考えています。鉄骨平屋で七五五の広さです。建設委員会も出来て、順調に進めば九月末

● その他では、厚生連病院の北へ高森町で計画している福祉複合施設(豊丘村でも一部参加します)が建物で約十三億円で入札されて、一月三十日に起工式があります。完成は十四年一月三十一日、同年四月一日開所予定です。運営の主体はJA長野会に委託する事になっています。

(社会副委員長 久保田博人)



広くモダンな老人福祉施設(北海道視察から)



中学校新体育館の内部(こけら落としから)

最近の活動から

松くい虫 空中防除 先進地視察

昨年十二月一日、議会経済建設委員会と区長会で構成する松くい虫被害予防空中散布実施合同検討会は、空中散布として十年の実績を持つ坂城町と戸倉町へ先進地視察を実施しました。



新しい世紀を迎え、心からお慶び申し上げます。皆「とてもすばらしい所だ、こんな所に住みたい」と口々に言います。豊かな丘の我が村は、今少子化問題、高齢化が進み、農業経営が出来なく、休耕地が増えてる現状です。宅地を増やし、人口を増やし、豊丘村を活性化します。人口が増えれば少子化問題、また、商工業において向いて行く事と

豊丘はすばらしいところ

＝活気には人口増対策を＝

和子 片桐 三 林里

私の一言を書く様にとの事で大変困ってしまいました。思っている事を思ったままに書こうと思います。

豊丘に住んで二十八年になる今、心から豊丘に住んで本当に良かったと思っております。

富士市より受け入れた子供達、東京から受け入れた援農ボランティアの方々、

思います。「住みよい、いい所、豊丘」をアピールして、宅地化を進め、人口を増やしてほしいと思います。



目的は、議会に提出された陳情書「松林への農薬空中散布の有効性、安全性が確認されるまで無期限延期を要望する陳情書」の審査のための視察です。内容は空中防除の有効性、水質汚染対策、広葉樹林帯除外状況、松茸・食用菌茸類への影響と安全性の確認であります。

坂城町は毎年二十五ha前後、戸倉町は三十五ha前後を、ともに昭和六十年から住民要望の高い松茸山や伐倒不可能な急傾斜地で実施をしていました。

散布地内には枯れた松はほとんどなく、効果はあると判断できると思われます。環境調査は実施されていないのでデータはないが、十六年間の継続した散布も、付近の農林産物や河川からの異常が見られないとのこと。両町とも効果があるとの判断から、今後も継続して空中散布を実施していくとのこと。

しかし埴科地方とは山の地形が違うことや、被害となる赤松の面積や被害量、松茸生産量が本村よりも少ないことから結果を単純に置き換えることにはならないかと思えます。

いづれにしても、多くの村民の皆さんが納得の上での事業実施が必要かと思えます。ともあれ、あらゆる角度から論議しなくてはならないでしょう。

長 林 惇

編集後記

▼二十一世紀の幕あけを迎えた。新しい世紀が希望に満ちた時代となり得るのか、好転しない経済状況、地球環境等課題は多い。今年から平均気温の平年値があがる。特に都市部が著しい。温暖化の影響が統計上からも明らかになってきている。米民間研究機関の発表によると、北極海の氷の厚さが一九五〇年代と比べて四二%減少しているとのこと。又、このまま化石燃料の使用が続けば、今世紀末には平均気温が最大で五・八度上昇すると予測しており、極めて深刻な影響がでるとされる。

▼環境ホルモンの影響は孫の代に顕著にあらわれるという、信大におけるマウスでの研究結果が発表された。塩ビ製品に含まれるフタル酸ジエチルヘキシルをマウスに投与すると、孫の代の生存率が大きく低下することが実験で確かめられたという。

人間にも同様の影響がでるかどうかは不明だが、今でも少子化と騒がれているだけに心配なことだ。

